

政務活動調査報告書

調査日	平成 29 年 5 月 17 日 (水)
視察場所	愛知県碧南市
調査項目	「総合型地域スポーツクラブ」について
視察者名	井手瀬絹子
市の概要	面積：36.68 km ² 人口：71,362 人 人口密度：1,874.48/人 世帯：25,086 世帯 経常収支比率：85.2% 実質公債費率：1.0%

<総合型地域スポーツクラブ>

- ・文部科学省の推進のもと、全国の自治体に設立されている地域主体のスポーツクラブ
- ・「総合型」とは、3つの多様性を包含していること
 - 1、種目の多様性
 - 2、世代や年齢の多様性
 - 3、技術レベルの多様性
- ・総合型地域スポーツクラブは、こうした多様性を持ち、日常的に活動の拠点となる施設を中心に、会員である地域住民個々人のニーズに応じた活動が質の高い指導者のもとに行えるスポーツクラブです。
- ・基本認識・・・
 - 1、自主的な運営
 - 2、自主財源を主とする運営
 - 3、クラブとしての理念



<NPO 法人 へきなん総合型スポーツクラブ>

設立：2009年4月

方針：スポーツやレクリエーションの魅力を活かしたプロの世界を目指す人、健康づくりをする人、友達作りをしたい人などのお手伝いをします。

目標：子供には子供らしい環境をモットーにそれぞれの年代の心と体にあったプログラムを提供していきます。

会員数：正会員＝16名、個人会員＝316名、家族会員＝103家族、274名

指導者数：種目指導＝42名、元気ッス！キッズ運動指導30人（碧南市スポーツ推進員）

教室：親子体操、キッズミックス、バレーボール、スーパーキッズ、ポールウォーキング、

チェアー体操、バランスボール、スポーツ吹矢、ロコモ予防体操、スラックライン小学生、一般等

<県内の総合型地域スポーツクラブの現状>

57 市町村中 35 市町に 92 クラブ

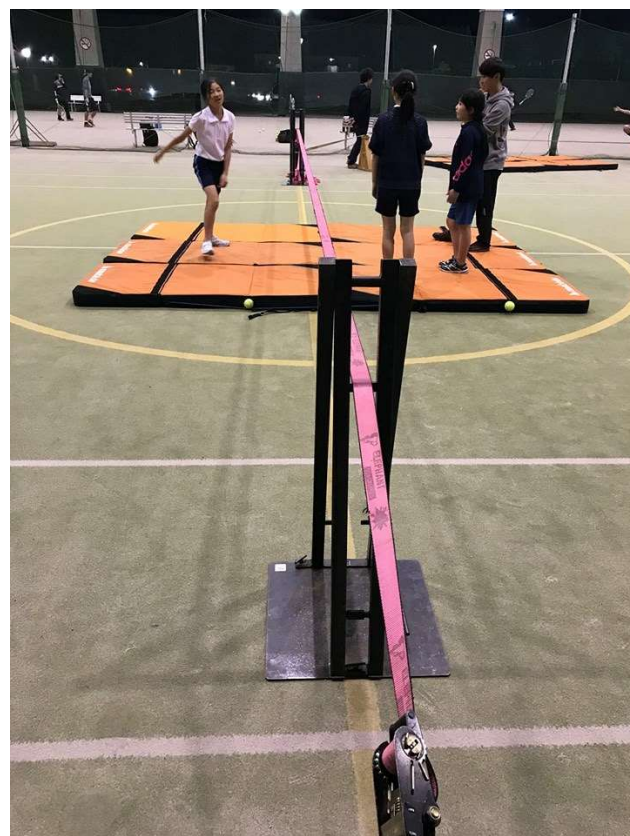
名古屋市＝1、北名古屋市＝6、小牧市＝4、半田市＝5、豊田市＝13、刈谷市＝6、岡崎市＝1（NPO 法人ワスパ、平成 22 年 4 月設立）、豊橋市＝4、その他

<スラックラインとは>

- ・ヨーロッパ発祥のバランススポーツで、木や柱の間に伸縮性のあるベルト状のラインを張り、その上を綱渡りのように乗ることによって、体幹や集中力を鍛えつつ、バランス感覚も養えるスポーツ
- ・ダイエットにも最適、子どもからできるスポーツとして発展している。

<所 感>

今回の視察は、市民の方から「スラックラインの練習場所が岡崎には無いが碧南市にはある。岡崎にも作って欲しいが・・・」とのご相談を頂き調べてみたところ、碧南市の総合型スポーツクラブでスラックラインの教室があることが分かったため、クラブを訪問、スラックラインの小中学生の教室を見学させていただきました。教室を開くまでの経緯は、碧南市の臨海公園の片隅に生えている木々を利用してベルトを張りスラックラインの練習をしていたところ、スポーツクラブの方から場所の提供を受けたことがきっかけとなり、お礼にスラックラインの指導を申し出たところ、教室を開くことになったと伺いました。以来、小中学生の部、一般の部ともに 20 名の定員を超える申し込みと伺いました。その中から高校生のプロが誕生し、世界大会に出場するまでになっています。視察当日はその細江樹プロがアメリカの世界大会に出発する前日でプロの素晴らしい演技を目の当たりにし感動いたしました。碧南市では全国大会を誘致するまでに拡大されています。スラックラインは若者をターゲットにしたニュースポーツです。ニュースポーツはレクリエーション・スポーツと言われており、誰でも気軽にでき、競うことよりも楽しむスポーツであると言われてはいますが、若者の興味を引くには、競うことも必要ではと思います。スラックラインは、場所を取らず、準備に時間もかからず、費用もベルトと下に敷くマット代くらいで気軽に楽しめます。最近では、体幹を鍛えるのに最適とスキージャンプの葛西選手や高校野球の球児たちがスラック





ラインを利用しています。本市で広まっているソフトミニバレーボールのように年齢に関係なく皆で楽しむスポーツも重要ですが、スラックラインのような若者に限定したスポーツの普及はこれからの本市の取組として必要ではないかと考えます。総合型地域スポーツクラブが現在はワスパの一か所ですが、それは活動拠点に限りがあることが大きいようです。(仮) 龍北総合運動場が平成 32 年供用開始予となっております、本市のスポーツ環境が大きく拡大

されます。スポーツクラブ増設のチャンスにして、スポーツ実施率の向上に繋げていただきたいと思います。本市では、ニュースポーツを選定する時はスポーツ推進委員やワスパなどと協議をされて決めると伺っております。今後しっかり協議をして頂き、まずはスラックラインを知ってもらうところから始め、本市が進めている乙川リバーフロント整備計画の中で実現できれば、市民の健康増進や観光客誘致にも一役買ってくれるものと思われま。今後の取組に期待いたします。

以上